

# 明日にむかって

●発行/陽光保育園創立40周年記念事業実行委員会 ●発行日/1989年2月1日  
住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎(956)1068

陽光保育園は、ことし創立40周年を迎えます。水道タンク前の緑陰保育からスタートし、地域の方々や歴代の従業員の皆さんの温かい協力と支援によって、今日も「子どもたちの城」として、陽光は保育活動を通して、「健やかな子どもたちの育ち」のため、がんばっています。しかしながら、保育園をめぐる環境は徐々に厳しさを増しつつあり、解決しなければならない問題も山積しています。私たちは、この地域に根づいた陽光の一層の発展を願ってこの40周年という時点をステップにして、さらに活動を活発化していくつもりです。記念式典の日程と会場も本年9月10日、板橋文化会館と決まり、本番へ向ってよいよスタートです。

## 九月十日に「記念の集い」

### 会場は板橋文化会館大ホール

今年、陽光保育園が誕生してから丁度四十年目にあたり、四十周年を単なる形式的な式典に終らせたくないという願いで、二年程前から、四十周年記念事業実行委員会が設けられ、記念事業の内容を検討する一方、地域の皆さんに、陽光保育園の現状を理解していただき、あわせて交流を深めていただく趣旨で、ファミリーコンサート、ビアパーティ、落語会などの行事を積み上げてきました。さて、本番の「陽光保育園四十周年記念の集い」ですが、このほど、その概要が決まりました。「集い」は二部形式で、第一部が「東京コレギウム・オリジナル」による記念音楽会と記念式典。第二部は記念セレブションです。日程は九月十日、会場は板橋文化会館大ホールです。父母、職員、卒園児、後援会、その他陽光保育園四十周年の歴史の中で、園を支持して下さった地域、団体の方々など約一千人以上の方々にお集まりいただき、盛大に挙行する予定です。



▲写真 渡欧公演 聖ヨハネ教会にて(ロンドン)

#### 東京コレギウム・オリジナルについて

陽光保育園の創立四十周年記念のつどいが行われる九月十日には、わが国におけるオリジナル楽器を用いたオーケストラの草分け、東京コレギウム・オリジナルを板橋区文化会館大ホールにお招きし、モーツァルトの交響曲などを演奏していただくことになりました。このオーケストラのプロフィール、性格などのあらましをご紹介することにしましょう。このオーケストラは、最初からオリジナル楽器ではなく、普通のモダン楽器で、一九七六年、指揮者濱田徳昭の手により発足しました。しかし、バロック音楽を続けるうちに、モダンの楽器と奏法とで古い音楽を演奏する違和感が気になりだし、当時の楽器の音色、響きで演奏してみたいと思うようになったといえます。これがオリジナル楽器と当時の奏法に進む動機になりました。これは世界のバロック音楽の流れでもあり、既に来日しているホグウッドやコープマン、三月に来日するガーディナー、あるいはアーノクールなどが華々しく活躍しています。このような演奏があたりまえになってくると、次に続くモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンはどうだったと思うのは自然のなりゆきです。

#### 第二回陽光新春寄席開く

### 爆笑渦巻く楽しい夕べ

一月二十一日、陽光保育園ホールで「陽光新春寄席」が開かれました。これは、創立記念事業の一環として計画されたものです。暖かい陽気にめぐまれ、約百名の地域や園の関係者が参加しました。開口一番は、柳家小さん門下の柳家さん弥さんの「初天神」。ほのぼのとした父と子の交歓をえがいたこのさわやかな好演は心に残りました。次いで、昨年も来ていただいた柳家小はん師匠の「啞の釣り」。巧みな話術と演技で迫力満点。ひき続いて新趣向の奇術。美しい松旭斎静花さんに呼ばれて舞台上に立った吉永さん(写真)。何度も、ひもで自分の首を締める破目に陥って、目を白黒。場内は大爆笑。そこで中入り。日本酒や甘酒でくつろいだ後、むすびは小はん師匠の「愛宕山」の熱演で幕を閉じました。楽しいひとときを過ぎた満足感にひたって家路につきました。(文・清水)



その代表的指揮者はホグウッドです。東京コレギウム・オリジナルもこれらの世界の流れのもとモーツァルト、ベートーヴェンをオリジナル楽器を用いて演奏しはじめています。このオーケストラは、日本オラトリオ連盟の合唱「アカデミアカントルム」とともに、あるいは単独で、日本各地はもとより、五回の渡欧公演を行い、ヨーロッパでは各国の新間、極めて高い評価を得ています。今年一月三日には、NHK恒例のニユーイヤーパーラコンサートに出演、フランス革命二百年を記念して演奏されたオペラ「青ひげラウール」のオーケストラを担当しました。一九八六年、残念にも指揮者濱田をガンで失いましたが、その後ホグウッドを客演指揮者に迎えるなど、新生面を見せるこのオーケストラ、九月のステージが楽しみです。

## おしらせ

◆第三回陽光ファミリーコンサートのおしらせ  
来る四月十六日(日)、東京コレギウムのメンバーによる「矢島榮子オリジナルストウリングカルテツト」の演奏会を予定しております。演奏者は、第一ヴァイオリン・矢島榮子、第二ヴァイオリン・神戸愉樹美、ヴィオラ・山森陽子、チェロ・堀内茂雄の諸氏。曲目はモーツァルト・弦楽四重奏曲K156、デイヴェルティメントほか。詳細は後日お知らせします。お楽しみに。

### 働く人々と

### 子ども達の幸せを願って

一九八九年、いよいよ陽光保育園創立四十周年です。理事会の呼びかけで創立四十周年記念事業実行委員会が発足して、かれこれ二年。十六名の実行委員を先頭に、この間さまざまな行事にとりくんできました。働く人々とその子ども達の幸せのために、みんなで知恵を出し合い、力を集めてよりよい仕事をしたい。働く人々とその子ども達の幸せのために、まずはこの記念事業の成功のために奮闘したいと思

います。(実行委員長 星野 紀)

# 報告 さいきんの保育現場から

## 光ヶ丘でタコあげ大会

### 風がよわく悪戦苦闘

「すごい、翔ちゃんタコ、飛んでる。」

「えっ、どっこい、本当だ」

「李太郎のもあんなに高く、ホラ、下の大きな木のところ」

「とんでる。よかったね」

まわりから保育達の激励の拍手が湧きました。

今日(一月十九日)は、年に一度のタコあげ大会。光ヶ丘公園へ全クラスの子も達がお弁当を持って集まりました。

自作のタコをあげるのですから子ども達は、張り切っています。

★かもしか組(五才児)は、とんぼ組(二才児)から、タコを作るので手伝ってください」と申し込みがありました。五日位前のことでした。「うん、いいよ」ところよよい返事がすくあったので、とんぼ組は

ホールでタコ作りを始めました。タコの素材はビニールです。マジックで型をとってあるところに、絵をかきました。高い空を飛ぶタコに思いを寄せて描きました。かもしか組の子もは、型をハサミで切り取り、それから、ヒコをつける作業をひとりひとりの子どもにしっかりとついで、仕上げを待たせてくれました。

めだか、あひる、とんぼ、うさぎの各組は、ビニールタコですが、年長のかもしか組は和紙を使いました。絵具で色付けをして、可愛いらしいタコができあがりました。タコあげの日は、風が吹いているといいなあ。そうしたら、ほとんどのタコがあがるから。あと三日ねるとタコあげの日、あと二日ねると指折り数えて待っていたこの日。

★第一号の良尚ちゃんのタコの尾っぽは、和紙を二枚糊でつけ合わせたもの。「とばして、ごらん」のひと声に、良尚ちゃんは猛烈な勢いでかけ出しましたが、タコはふわあとながったと思うと、すぐ、くるくると回転して落ちてしまふ。「おかしいな、風が無いからかしら。それともバランスが合わないのかな」。

今度は二枚合わせではなく、一枚にして長くしてみよう、今度は新聞紙を繋ぎ合わせて飛ばしてみよう、と、保育は少しでも高く、大空に高くタコを、との思いで気持一杯。いろいろ考えながら尾っぽつけに夢中です。

尾に新聞紙を長く繋いだタコがあちこちで高く揺れているのを見ると、イイゾー、モット走れ！走れとどんな大声で叫んでも届かない。ますます小さく遠く去っていく子どもに、拍手したり、激励したり、落ちてしまふと残念がったりで、保育たちはタコの上がり下がり一喜一憂していました。

小さいクラスの子も達は、担任に作ってもらったタコを手にして大喜び。走っても走っても地面をはいずりまわっているタコを、後ろを振り返り振り返りしながら楽しんでいました。

小内先生も子ども達に負けずでやっています。走りこんだのか顔を真っ赤にして「どつだ、よくあがっただろ」と、得意そうに保育にいいいます。「えっ、みていなかった」と答えると、「仕方ない、もう一度やるから見ていてよ」とビューンとタコごと身体ごとすっとなでいきました。

風が全くない暖かい日、たんぼぼが咲きそうな暖かな日。タコあげの一日でした。(一月十九日)



## 園庭でおもちつき

### 地域の子ども、父母交えて

新しい年が始まりました。正月休みから久しぶりに登園した子ども達は、半袖、半ズボン姿で「子どもは風の子」とばかり、ホールではコマまわし、砂場ではどろんこ遊びと元気一杯です。

今年の「新年のついで」は、職員5人の保育がバチを両手に握りしめ、力強い太鼓の音を鳴り響かせました。

園庭においた太鼓を、全クラスの子ども達がぐるりと囲みました。ドンドンドン、ドンドンドンの太鼓のリズムに、ホイサと子ども達のかげ声が元気にね返ります。ドンドンドン、ドンドンドン

新しい年が始まりました。正月休みから久しぶりに登園した子ども達は、半袖、半ズボン姿で「子どもは風の子」とばかり、ホールではコマまわし、砂場ではどろんこ遊びと元気一杯です。

今年の「新年のついで」は、職員5人の保育がバチを両手に握りしめ、力強い太鼓の音を鳴り響かせました。

「つきあがったよ、」の声に、もちは大きなボールの中におさまり子ども達の目の前をぐるりとひと回り。「おいしそう、」まっしろだね」といいながら、首をぐーんと前に伸ばして見入っていました。

年長のかもしか組も、もちつきをしました。せっかちにキネを振り上げる子、よろめく足を踏ん張る子、その子なりのもちつきが出来て満足そうでした。

つきあげたもちは、すぐさままなこ、からみ、あんこ、のりもちに変身。お皿の中は、色とりどりのおもちが勢揃い。具がたっぷり入った石狩汁もいただいて、とても幸せ気分でした。

会食の仕度はかもしか組の子も達です。エプロンをかけ、三角巾をかぶり、朝から大忙しでした。盛りつけの手さばきは上手です。おかわりにきた小さいクラスの子どもには「どのおもちが食べたいの?」と、腰を屈めて優しく接していました。一日の流れの中に、年長さんの六才の力が見事に発揮されていました。

「いっしょにあそぼう」に参加した親子も今日は食事付きです。在園児と同じテーブルについて、舌づつみをうちました。

★今年も精一杯子ども達の成長を願い、子ども達と共に育ち合いたいと思います。

どうぞよろしくお願致します。

「いっしょにあそぼう」に参加された父母の方から、たくさん感想や意見が寄せられています。その一部をご紹介します。

●保育園のお友達は生き生きして多くの方に興味を示す。うちの子も散歩やリズム運動で馴れてくると、とけこんで遊んでいた。かもしかのお兄さんのやさしいこと、来てよかった。●初対面の子達がとても親切に遊んでくれた。リズム、リヤカーとあつという間の二時間だった。本人も充実していたようだ。

●保育園は親が働くために子供を預ける所と思っていたが、そうではなく、子供のためになるという思いが参加する度に深まった。こういう会を一度でも多く開いてほしい。●砂遊びで思う存分どろんこになった。あれほど汚れると気持ちいい。●とにかく圧倒された。保育園へ初めて子どもを預ける親は不安だ。頭ではなく体と心から発してくる保育が大事だと痛感した。友達の子にも体験させたい。●びっくりしたというのが第一印象。部屋の雰囲気、元気が子供達、圧倒された。また参加させたい。

「いっしょにあそぼう」に参加された父母の方から、たくさん感想や意見が寄せられています。その一部をご紹介します。

## 園児募集集中!!

一九八九年四月入所

年令	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	合計
陽光	6	4	2	3	3	1	19
%現在申請数	7	5	3	3	3	0	21
板橋福祉事務所管内							
入所可能数	152	165	126	145	149		737
%現在申請数	108	136	83	115	29	6	477
板橋・志村・赤塚(板橋区)							
入所可能数	527	438	317	455	245	158	2140
%現在申請数	321	406	238	287	87	23	1362

## 陽光保育園でいっしょに遊びましょう

「陽光保育園」の企画により、地域の子どもたちと園児が、楽しいリズムや歌・砂あそび・お散歩など、月一回の交流をしています。はじめてから一年になりますが、延べ六十六名の子どもたちが参加しました。

今年度はあと二回  
二月七日(火) 午前九時から  
三月七日(火) 十一時まで。

参加希望の方は事前に陽光保育園(電話・九五六一〇六八)までご連絡下さい。対象は〇才から就学までの乳幼児です。付添の方も活動しやすい服装でお出かけ下さい。

「いっしょにあそぼう」に参加された父母の方から、たくさん感想や意見が寄せられています。その一部をご紹介します。